

令和3年度 研修会・学会等参加実績

1. 兵庫県看護協会主催研修会

研 修 会	開催日	参加者
実地指導者研修②(WEB)	8/4.12/2 10/6.2/21	2
病棟ナースが知っておきたい在宅療養の実際(WEB)	2/7	3
スタッフナースが取り組む退院支援(WEB)	11/15・16	3
退院支援実務者研修(WEB)	10/11・12 10/14.2/9	1
知っておきたい認知症看護 1(WEB)	7/7	3
知っておきたい認知症看護 3	11/9	2
知っておきたい認知症看護 4	10/7	2
知っておきたい認知症看護 5	11/6	3
高齢者の暮らしを支えるケア 1(WEB)	10/12	3
高齢者の暮らしを支えるケア 2(WEB)	11/9	3
高齢者の暮らしを支えるケア 3(WEB)	12/7	3
高齢者の暮らしを支えるケア 4(WEB)	1/19	2
人生の最終段階の意思決定支援①(WEB)	7/1	1
人生の最終段階の意思決定支援②(WEB)	7/13	1
災害が発生したらどうしますか？	12/13	3
今日から使えるアンガーマネジメント	8/7	2
看護研究はじめの一步(WEB)	2/3	1
臨床における看護研究と支援のポイント(WEB)	12/9・16	2
「日本看護協会」認知症高齢者の看護実践に必要な知識①(DVD研修)	10/25・26	1
「日本看護協会」認知症高齢者の看護実践に必要な知識②(DVD研修)	12/14・15	2
看護職認知症対応力向上研修①	6/1・2・9	1
看護だからできる摂食嚥下ケア(WEB)	10/26	3
人工呼吸器の基礎知識と装着中の看護(WEB)	7/15	3
ケアの質を高める看護倫理(WEB)	10/29	3
今日から役立つせん妄ケア	10/22	3
フレイルから摂食嚥下障害へ進むかは入院中の関りで変わる(WEB)	11/2	3
重症化・急変予測に必要なスキル(WEB)	12/6	3

研 修 会	開催日	参加者
地域と病院をつなぐ外来看護(WEB)	6/26	2
在宅療養支援における外来看護管理者の役割(WEB)	2/25	2
主任のための役割講座(WEB)	6/28・29	3
師長のための基軸づくりと役割講座(WEB)	7/8・9	1
裁判事例から学ぶ法的責任に基づいた看護実践	12/7	1
ウィズコロナ社会に対応する新人看護師の育成	12/24	1

2. 日本看護協会主催研修

研 修 会	開催日	参加者
感染リスクの低減に必要な知識と対策(Zoom)	6/22	3
組織管理入門(Zoom)	6/16	2
データを活用した看護管理(Zoom)	10/8	2
コロナ禍における複合災害等への備え(Zoom)	6/18	3
病院看護管理者に求められる認知症高齢者ケアの充実を目指したマネジメント(Zoom)	9/15	1

3. その他研修

研 修 会	開催日	参加者
県立病院看護部師長研修(2～4年目) *今年度は5年目まで含む(WEB)	8/6	5
県立病院看護部部長・次長研修(WEB)	8/21	4
リハビリテーション・ケア合同研究大会(神戸)	11/18..19	8 発表2名 応援6名
兵庫県看護協会看護実践研究会(神戸)*WEB	11/20	2

4. 看護協会等学会

学 会	開催日	参加者
兵庫県看護協会定時総会(神戸)*WEB	6/17	4
兵庫県看護協会職能集会(神戸)*WEB	6/17	10
日本手術看護学会年次大会(神戸) *LIVE配信(10/16) ※WEB配信(10/16～11/24)	10/16～11/24	1
日本リハビリテーション看護学会 学術大会(大阪) *オンデマンド配信	11/22～12/21	1

その他・研修会	開催日	参加者
BLSヘルケアプロバイダーコース		4
ACLSヘルケアプロバイダーコース		1
ICLSヘルケアプロバイダーコース		1
県立病院 医療安全研修会(WEB)	11/25	16

令和4年度看護部新任職員中央オリエンテーション実績

月日	研修テーマ	ねらい	参加数	評価	講師
4月6日(水)	リスクマネジメント① 医療安全部の役割と実際 救急対応教育	医療安全関連の経緯、当院の医療安全推進体制について理解する。 中央病院の救急コードを理解する。 CPRの基本とAEDの使用方法を理解する。	31	医療安全関連の経緯、当院の医療安全体制、インシデント内容と報告について学んだ。 コードQQのかけ方、CPR及びAEDの使用方法を実践した	医療安全部課長 救急教育チーム
4月8日(金)	リスクマネジメント 感染対策 スタンダードプリコーション	医療職として必要な感染対策の基本を理解する。	30	手指衛生の方法を講義と実技で学び、自己の手指衛生の手技や効果を振り返ることで、改善点に気づき効果的な方法を考えることができていた。また、標準予防策の理解が深まった。	ICT
4月11日(月)	電子カルテ操作練習	電子カルテの基本操作がわかる。 カルテ記載上の注意点がわかる。	30	電子カルテの基本的な操作説明及び実技練習を行い、勤務場所で安全に電子カルテを使用できるよう学習の場を設けた。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐
4月12日(火)	日常生活の援助技術③ 更衣	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 更衣の手技がわかる。	30	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解することができた。リハビリテーション病院における基本的な更衣の介助方法がわかった。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 主任
	当院における記録の実際	看護記録について、基本的な知識が理解できる 当院の看護記録についての基本がわかる	30	記録の書き方、書くべきこと、記録の意義等、実際のカルテ記入例を通し学んだ。看護計画、フォーカスチャーチング演習報告の基本について学んだ。	記録委員 補佐
	報告って何をどうするの？	報告の基本について理解できる。 実践場面での活用方法について理解できる。 報告のツール(SBAR)がわかる。	30	報告の基本である、報告・相談・連絡が理解でき、実践場面で活用できるように、SBARの視点を持って報告することを学んだ。	
4月13日(水)	日常生活の援助技術② おむつ・尿便器のあて方	排泄の介助が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 安全安楽な排泄ケアの実際を学ぶ。	30	介助に必要な状態や疾患、障害を理解することができた。安全・安楽な援助方法を学び、演習を通して排泄ケアの実際がわかった。 感染対策として小グループに分かれて実技と意見交換を行った。	皮膚・排泄ケア 認定看護師 おむつフィッター
	リハビリ看護の専門性を語る① 皮膚・排泄ケア	褥瘡予防や排泄ケアの看護について基本的な考え方が理解できる。 当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	34	認定看護師の役割、排泄における看護、褥瘡リスク、除圧とスキンケア、褥瘡回診等チームアプローチについて事例を交え学んだ。	皮膚・排泄ケア認定 看護師
	看護技術③ 吸引	吸引が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 気管内吸引の手技がわかる。	31	気道分泌物や貯留物を除去して、気道の閉塞・呼吸困難を防ぐことを学んだ。 内視鏡室で吸引の技術を経験した。 密を避けるため3グループに分かれて実施した。	師長補佐 主任
4月14日(木)	看護技術①② 酸素吸入 血糖測定	酸素吸入、血糖測定が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 酸素吸入・血糖測定の必要物品と手技がわかる。	30	気道分泌物、貯留物を除去して、気道の閉塞や呼吸困難を防ぐことを学んだ。 技術の実際を体験した。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐
	日常生活の援助技術① 口腔ケア	リハビリテーション看護における口腔ケアの注意点を知る	30	嚥下の実践を体験学習し、口腔ケアを実施することの重要性を感じる事ができた。 密を避けるため2グループ入替制で実施した。	NSTリンクナース 脳卒中看護 認定看護師 師長補佐

4月15日 (金)	リハビリテーション看護の専門性② ICFの考え方 FIMについて	ICFの基本的な考え方を理解し、当院でのICFにおける看護師の役割がわかる機能的自立度評価法(FIM)について学ぶ。	33	健康と障害の見方・考え方、ノーマライゼーション、出来る事をプラスの視点で考えることを学んだ。 FIMについて知ることができた。	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 回復期リハビリテーション認定看護師
	リハビリテーション看護の専門性③ 脳卒中看護認定看護師	脳卒中リハ看護について基本的な考え方が理解できる。当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	33	リハ看護を実践するスペシャリストとして、脳卒中の病態から、様々な障害に対する看護について講義を受け、リハ看護のやりがいや楽しさを学ぶことができた。	
	看護必要度・日常生活機能評価	看護必要度とは何かを理解する日常生活機能評価項目と評価の仕方を知る。	32	回復期リハビリテーション病棟の機能や看護必要度の理解を深めた。日常生活機能評価項目及び評価の仕方を学んだ。	
4月18日 (月)	日常生活の援助技術④ 体位変換・移動	体位変換、移乗移動が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 ボディメカニクスの原理原則を理解し、応用することができる。	30	体位変換・車いす移乗・移動の基本的な介助方法を理解できた。ボディメカニクスの原理・原則を理解し体位変換や移乗の介助に応用する方法を学んだ。 自部署で講義を受けた後、2グループ制で集合研修を実施した。	師長補佐 主任
4月19日 (火)	リハビリ看護の実際・先輩看護師から	先輩看護師の話聞くことで、看護師として働く自分がイメージできる。 看護師として働くこと不安を解消させる。	30	経験2～3年の先輩看護師の体験談を聞くことで、これからの自分をイメージでき、不安や緊張の軽減につながった。1年経てば成長しているという言葉で、今できることを頑張りたいという前向きな意見が多くあった。	中堅看護師 師長補佐
	思いを言葉にのせて ～こんな看護師になりたい！～	3週間の研修の学びを通して、これからの自分の看護を考えるきっかけとする。	30	グループワークで「こんな看護師になりたい」を模造紙に書き、決意表明できた。言語化することで看護師像をイメージでき、お互いの目標を共有することで良い刺激になっていた。	師長補佐

看護部部長補佐会
令和3年度新人教育研修会実績

令和3年度は看護部新任職員内訳新卒新人19名・既卒新人2名であった。

対象者	日時	参加人数	ねらい	講師	研修方法	研修内容	
新人看護職員研修	<診療・治療に係わる技術> 静脈採血	5月12日	19名	真空管ホルダーを使用し静脈血採血の手順を理解し安全に採血できる	小村・阿部 池田・信濃・繁田	講義・実技 DVD	講義、DVD視聴、デモンストレーション、テストブラッドキットによる演習をし、参加者同士で相互に留置練習を行った。
	評価	採血針のセーフタッチの機構やキャップの開け方など、練習やイメージトレーニングを行ったことでテストブラッドキットの練習がスムーズだった。針刺し事故もなく実施できた。参加者の情報より配慮をしながら行ったが問題なく実施、患者役も出来た。迷走神経反射などの情報は事前を知っておくほうが準備ができてよい。					
	<診療・治療に関わる技術> 薬の見方	5月19日	19名	看護師の役割りを果たすために安全かつ確実に薬物療法を行うための知識・技術を持って、与薬の援助を行う事が出来る。当院での基本的な内服薬の与薬準備ができる。	米分・松本(ま)・得平	講義・演習	講義後、小児病棟より借用した配薬車のボックスを1人1個ずつ使用し、ペアで処方箋と薬の照合をして与薬準備の実際を行ってもらった。
	評価	配薬ケースを1人1個用意できたため。与薬準備の実際を行う時間の短縮ができた準備と後片付けに時間を要した。パワーポイント内の動画の音声小さく、講師が動画の説明を行った。スピーカーの準備が必要だった。					
	<安全管理> 夜勤に向けての説明会	5月19日	19名	当院の夜勤前後の流れ、諸注意を知ること夜勤のイメージが出来る。夜勤に向けて、健康・安全・生活に及ぼす影響を知り、自己の健康管理が出来る。	米分・松本(ま)・得平	講義・見学	講義内で勤務表の見方をクイズ形式で説明した。保安室等の見学の引率を2交代と3交代に分かれて必要な説明を行いながら実施した。
	評価	クイズ形式による勤務表の見方の説明は理解できていた。講義内容はもう少しまとめてもよい。今回は内容をまとめて講義した。					
	<情報管理> 記録・電子カルテについて	5月26日	19名	当院での看護記録について理解できる フォーカスチャータリングの基本を理解し状況に応じた記録の記載ができる	小村・入江	講義・Gw	講義後各自で演習をした後GW実施
	評価	研修ホールでの実施となり、グループワークがしにくかった。内容を記録委員会でみてもらうこともいいかもしれない。ある項目だけにフォーカスが当たり、内容が不十分なグループもあった。					
	<診療・治療に関わる技術> 点滴静脈注射の管理	6月2日	19名	留置針を留置している患者の点滴静脈注射を看護師が安全に実施できるよう、知識・技術を習得できる 留置針を留置し、点滴注射を受ける患者に安全・安楽な看護の提供ができる。	得平・米分・稲垣・南	講義・演習	講義とDVD鑑賞後、実技(輸液ラインの準備、気泡を抜く、三方活栓につなげる、陽圧ロック、点滴時のチェック)を行なった。
	評価	講師の集合は1時間前だったが、余裕を持って設営できるよう物品やレジュメの準備を事前しておくとうよかった。講義中、寝ている人はいなかったが、うとうとしている人が2名ほどいた。実際に自分でおこなうことで、イメージがついたという意見があった。手術病棟では、この研修後に点滴管理を開始できるため、研修時期は適切だった。					
<研修の振り返り・フォローアップ> 3か月の振り返り	7月21日	20名	看護師として3ヶ月間振り返る仲間との交流を通して心のリフレッシュができエンパワメントする機会とする	繁田・高瀬	グループワーク	「○○ができるようになりました」の発表、「嬉しかったこと、良かったこと」「困ったこと・辛かったこと」「今後の目標について」グループワークを行い発表した	
評価	患者からの感謝の言葉や笑顔がモチベーション向上につながっている、声に出すことでできていることが増えたと実感強く持つことができた、辛いことや悩んでいることは自分1人だけではない、と、同期で話す機会や交流を持てたことでリフレッシュできたと思われる。集合研修が縮小されている中であるが、同期での集まりや話し合いがしたいとの意見も多く、今後も同様の形での研修は必要である。						
<診療・治療に関わる技術> 一輸液ポンプ・シリンジポンプ	7月30日	17名	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作手順を理解する。 輸液ポンプ、シリンジポンプを適切に使用できる。	高瀬・入江・榎野	講義・実技	業者からの講義と実技研修を実施	
評価	密を避けるため、研修室3グループ、研修ホール2グループに分かれて研修を行った。演習時間を長く取れたため、全員が体験できていた。						

看護部師長補佐会
令和3年度新人教育研修会実績

新人看護職員研修

<p><診療・治療に関わる技術> 医療機器の取り扱い —モニター—</p>	<p>8月20日</p>	<p>19名</p>	<p>モニターを使用する目的を知り、操作方法が分かる。</p>	<p>阿部・小村</p>	<p>講義・実技</p>	<p>感染対策によりZOOMで講義を受け、その後各病棟で実際にモニターを触って学習した。</p>
<p>評価</p>	<p>初めてZOOMでの講義を受けたが、資料や声も聞き取りやすく分かりやすかった。OJTでは、操作のDVD視聴とチェック表を用いて行ったが、操作方法やアラームの対応・患者の観察の重要性も学べていた。</p>					
<p><診療・治療に関わる技術> 薬剤について</p>	<p>7月28日</p>	<p>20名</p>	<p>薬剤部長の講義を通して、薬剤に対する知識を深める事例を通して、与薬の基本を再確認できる</p>	<p>松本(ゆ)・得平</p>	<p>講義 グループワーク</p>	<p>薬剤部長からの講義を受け、その後処方箋の見方がわかりにくい事例をグループワークし発表した</p>
<p>評価</p>	<p>全員が聴講・グループワーク共に積極的に行っていた。研修に臨む姿勢が全体的によかった。リフレクションには「薬の怖さを改めて知った」「マニュアルを見てもっと勉強したい」「薬の作用を「知って確実な与薬をしたい」等の振り返りが多くみられた。</p>					
<p><日常生活援助に関する技術> 移乗・移動介助技術 (公開講座①)</p>	<p>11月10日</p>	<p>20名</p>	<p>移乗・移動の介助技術を学ぶ。移乗・移動の介助技術を日常の看護に活かすことが出来る。</p>	<p>代田PT・入江</p>	<p>講義・実技</p>	<p>理学療法士からの講義を行いながら、実習も行う。</p>
<p>評価</p>	<p>理学療法士による講義・演習を通して、移乗・移動時の基本的動作や介助方法、福祉用具の安全な使用方法を学んだ。ワクチン接種の為時期が遅れたが、この時期に実施したことで普段の自分のケアを振り返る機会となったとの意見が多くみられた。 * 本研修は8月に予定していたが、新型コロナウイルス感染状況により11月に変更して実施した。</p>					
<p><看護職員として必要な基本姿勢と態度> 看護倫理 (公開講座②)</p>	<p>9月22日</p>	<p>22名</p>	<p>看護倫理の概念が理解できる。看護実践の中で倫理問題に気がつくことができる。</p>	<p>松本ま</p>	<p>講義 グループワーク (オンライン)</p>	<p>看護倫理についての講義。オンラインであったが、短時間でのグループワークも数回あり、講師とのやり取りも行った。</p>
<p>評価</p>	<p>オンラインであったが、講師から会場への投げかけもあり、活気的な研修ができた。講師と会場のやり取りも何度か行う中で、スムーズにできた。事前課題は、紙面での提出がなかったので、各自がどのようなことにモヤモヤしているか担当補佐が把握できていなかった。そのため事例発表で同じような事例になったので、講師への事前課題提出は不要であっても、補佐会としては提出してもらい、把握しておく方がよい。</p>					
<p><日常生活援助に関する技術> 退院支援・退院調整 (公開講座③)</p>	<p>10月6日</p>	<p>22名</p>	<p>退院支援・調整の実際がわかる 退院支援看護師の役割がわかる</p>	<p>高瀬・松本ゆ</p>	<p>講義</p>	<p>当院の退院支援についての講義</p>
<p>評価</p>	<p>退院支援、リハビリ看護の興味へつなげることができた。退院後や在宅生活のイメージができたという声も多く聞かれた。より具体的な関わりを知りたいという意見もあり、また、グループワークが行えず研修者の思いや考えについても聞くことができなかったため、今後の研修内容を検討する必要がある。</p>					
<p><日常生活援助に関する技術> 摂食・嚥下障害看護 (公開講座④)</p>	<p>10月20日</p>	<p>22名</p>	<p>摂食嚥下障害について理解し、摂食嚥下障害の看護について学び実践に活かす</p>	<p>松尾脳卒中看護認定看護師</p>	<p>講義 演習</p>	<p>摂食嚥下障害についての講義 ポジショニングの演習</p>
<p>評価</p>	<p>講義・演習で摂食嚥下障害についての理解が深まった。リフレクションでは、ポジショニングは安楽な姿勢が食事の意欲に繋がると感じると言う意見があり、そして背抜き、腰抜き、足抜きすることで不快感が大きく軽減することを体験できた。これらの気づきや学びを病棟でも活かして行きたいという意見があった。</p>					
<p><日常生活援助に関する技術> 褥瘡予防ケア・フットケア (公開講座⑤)</p>	<p>10月27日</p>	<p>22名</p>	<p>フットケアの必要性を理解し、基本的なアセスメントやケアの方法が分かる 院内でのフットケアへの取り組みを知ることができる</p>	<p>フットケアワーキンググループ</p>	<p>講義 演習</p>	<p>フットケアの方法、必要性等について講義 爪切りの演習</p>
<p>評価</p>	<p>爪切り・やすりの使い方だけにポイントを絞ったため、短時間(1時間)で研修ができた。講師と研修者を同病棟に設定したことで演習をスムーズに進めることができた。 人の爪を切ることの難しさや怖さ、また、爪切りが様々なリスク軽減につながることを知ることができ今後のケアに生かしていきたいとの声が多く聞かれた。 質疑応答が個別対応となったため、全体での質疑応答の時間を持つことで、より知識の習得に務める必要がある。</p>					

看護部師長補佐会
令和3年度新人教育研修会実績

	<症状・生体機能管理技術> シミュレーション研修	11月24日	19名	患者の訴える症状から必要な観察項目がわかり自分の判断でできる初期対応ができ、先輩看護師に報告ができる	松本ゆ・宮本村山・繁田	シミュレーション研修	①グループ毎にシミュレーションのグループワーク。 ②グループ毎にシミュレーション実施。 ③グループ毎にデブリーフィング。
	評価	シミュレーション場面をイメージしやすくなるよう事例の修正を行った。各自事前学習は出来ていた。グループワークでは発言出来ない参加者もあり事前の声掛けをしても良かった。シミュレーション発表では、すべてのグループが報告まで発表することが出来たが、実施することに意識が向いており患者への配慮が不足していた。リーダーPHS番号を知らない参加者が多くみられたため、各自確認しておくよう指導した。					
	<診療・治療に関わる技術> 静脈注射(留置針)	12月8日	19名	留置針による静脈注射を安全に実施できるように知識の確認と当院での技術・方法を習得できる	米分・得平・長畑・竹井・松下・信濃	講義 実技	当院での静脈注射の講義・DVDでの学習 デモ機による静脈留置針の留置練習 相互での留置針留置の実技体験学習
	評価	針刺し事故はなかった。職員同士の実技練習は2回までとし成功体験できなかった職員があった。 換気のため窓を開けたが、暖房を3か所していたため部屋の温度は保てた。 緊張のためか血管の出にくい職員も多かった。手浴等の保温対策があれば血管も出やすくなるのではと指導者から意見があった。 密にならないようグループ分けをしたが、実施見学时にテーブルの周りに集まり、密にならないよう適宜声掛けを要した。 DVDでは逆流防止弁付の静脈留置針ではなく、針先を圧迫止血していたため、実技でも圧迫止血している職員がいた。(圧迫止血は必要ないことをチェックリストに明示)					
	<研修の振り返り・フォローアップ> 1年の振り返り	1月19日	20名	自己の看護を振り返り看護観を明確にする 精神的に支え合う仲間づくりを行ない次年度の課題を見出せる	高瀬	グループワーク	あしあとを読んだ感想を発表 「こんな看護師になりたい」をGWL発表 各師長からメッセージを渡す
	評価	パーテーションの設置など感染対策を取りながらのグループワークを実施した。4月からの研修や自分を振り返ることで、2年目に向けた課題を見出すことが出来ていた。同期との交流でリフレッシュでき皆、リラックスし良い顔であった。新たな気持ちで2年目に向けて進んでいけると思われる。					
	<研修の振り返り・フォローアップ> 令和3年度 プリセプターフォローアップ研修	10月8日	10名	実地指導者としての指導を振り返る 新任職員の指導における課題の共有と解決策の検討ができる	阿部・入江	講義 GW	講義を行ない、グループワークを実施し発表した。発表内容をさらにディスカッションし解決策を検討出来た。
	評価	密を避けるため、グループワークは15分以内の制限を設けたが、意見交換は出来ていた。 思いを共有することが出来、不安が和らいだ、今日学んだ事を日々の関わりに活かしていきたいなどの意見があった。					
実地指導者研修	<研修の振り返り・フォローアップ> 令和3年度 プリセプター研修 振り返り 評価	2月16日 *集合研修は中止	10名	実地指導者としての指導を振り返る。新任看護職員指導における課題の共有と解決策の検討が出来る。	阿部・入江	講義 グループワーク	感染対策により研修会は中止となった。グループワークの内容を、個人ワークとする。それに対し講師・病棟の師長補佐からコメントを返し、振り返りとする。
	評価	ねらいに沿った振り返りが個人ワークでは出来ていた。個人ワークであるため、他者との学びの共有には至っていない。 *新型コロナウイルス感染状況により開催は中止し、紙面での振り返りとした。					
	<実地指導者の育成・支援> 令和4年度 プリセプター研修 育成・支援	令和4年 3月11日	16名	新任看護師の支援において必要な知識の獲得が出来る。	阿部・松本雅	講義 グループワーク	講義と「新人看護師の印象、新人時代に実地指導者に期待したこと」「こんなプリセプターになります」をテーマとしたグループワーク
	評価	グループワークは積極的に行っていた。コロナ禍における新人の特性は理解出来ていた。自分の新人時代の経験も振り返り、自己の目標や課題を考える事が出来ていた。					